

太田東西かわら版

2020.4

“進路”相談薬局



ここ太田東西薬局は 健康 相談薬局ですが、他にない特徴の一つが
「子どもたちに人気がある」ことです！(^-^)

写真の若者は小さい時から薬局に来ていました。
みんな、「太田先生大好き♥」です！（な、はずです(^-^;)）

今年は高校受験、大学受験、就職活動といった人生の岐路に立った
若者たちが多かったのですが、全員が夢を叶えることが出来ました！
＼(^o^)/

ではなぜ若者たちに人気があるのか？

子どもたちの出来ない部分を責めずに、出来る部分にフォーカスして秘めた才能を引き出すアドバイスを送っているからだと思われます。
(あと、話とキャラがおもしろいからだろうね(^-^))

親や学校の先生は、学業・成績重視。しかるに「もっと勉強しなさい！」
「こんな成績じゃ、行ける学校ないぞ！」「スマホとゲームばかり・・・」

しかし太田先生は、「人生業・人間性」重視。成績が悪くても、自分らしく自信を持って幸せに生きる。それを子どもたちに説いています。

「いや、そのためにもいい学校に進学して、いい会社に就職して、しっかりお金を稼いで、生活に困らないために、今勉強に頑張るべきでは？」
親御さんからの反論が聞こえてきそうですが・・・(^-^)

一流有名大学に合格することだけを考えて勉強に頑張った結果、無事に合格できた。親としては嬉しいでしょうが、合格することだけを目標に頑張った子どもというのは、達成感から次第に“虚無感”を覚えるものです。

親や学校の先生に言われた通りに、世間の常識や偏差値で選んだ進路。そこに自分の意志で決めたという主体性はない。大人に敷かれたレールの上を歩み続ける人生に虚しさを感じてやる気を失う。

子どもの不登校や中退で悩む親御さんは、最初決まってこうおっしゃいます。
「いや、子どもは自分で進路を決めました。それなのに行かないという態度にイライラするのです」と。

でもそれはほんとうに、自ら希望して選択決断した進路なのでしょうか？
学歴重視の親の価値観に従って決めた子ども。合格すれば親に愛して認めてもらえるという愛情不足の子どもなど。背景にいろんなケースがあります。

親が毎晩「あ～～疲れた・・・」とため息をついて帰宅して、毎朝「あ～～仕事なんかしたくない、宝くじで1億円当たらないかな...」などとボヤいてうつむき顔で出勤する親を見て、子どもはいったいどう思うでしょう？

そうした親は例外なく人生を楽しめていません。子どもが進路を見失っている場合、親自らが自分の進路を見失っているケースが多いと感じます。

子どもたちは最初、小児ぜんそく、アトピー性皮膚炎、頭痛、腹痛など病気の相談で親に連れられて薬局に来ます。そしてだんだんと子どもたちが元気に健康になっていくと、どのご家族も“共通の本質”にたどり着きます。

それは・・・太田東西薬局に一番お世話にならないといけないのは子どもではなく、「親だった！」ということです。

病弱な子どもは「手のかかる子」だったのではなく、「親想いの子」であり親（夫婦）の生き方考え方の問題に気づかせる役目（ダミー）だった。

「もっと太田先生のように、明るく楽しく前向きに、他人の目なんか気にせず楽に生きて行きなよ！ 人生の楽しみ方を教えてもらいなよ！」みたいに(^-^)

子どもの問題（病気、不登校、非行など）をきっかけに、夫婦関係や祖父母～孫の3世代が調和していく。それが私の何よりの喜びです。

さて、表紙写真の高橋君は今春から社会人となりました。先月、突然福岡から薬局に来て、「お世話になりました、志望した仕事に就くことができました」と御礼のあいさつに来てくれました。

その高橋君には8年前、高校受験の面倒をみてあげていました。当時中学生の彼の成績ではどこにも行けない・・・危機的状況でした。(^-^)

ある時、私は彼に尋ねました。「成績も水泳も中途半端で悔しくないのか？」。すると、「悔しくありません」と彼は答えた。もちろんそれは「人は人、自分は自分」という”悟りの境地”に居たわけではなく...(笑)、努力精進から逃げていた。

そんな高橋君は私の進路指導で鍛えられ、中学卒業式の夜にも勉強に来ました。高校では「誰にも負けたくない！トップになりたい！」と、水泳に頑張っていてインターハイまで出場するようになり、それが認められて大学に進学。高卒も厳しかった彼が「大卒」を得て、見事難関の会社にも採用されました。

体の成長以上の確かな

”心の成長”

頭をナデナデしながら

たくさんくさん

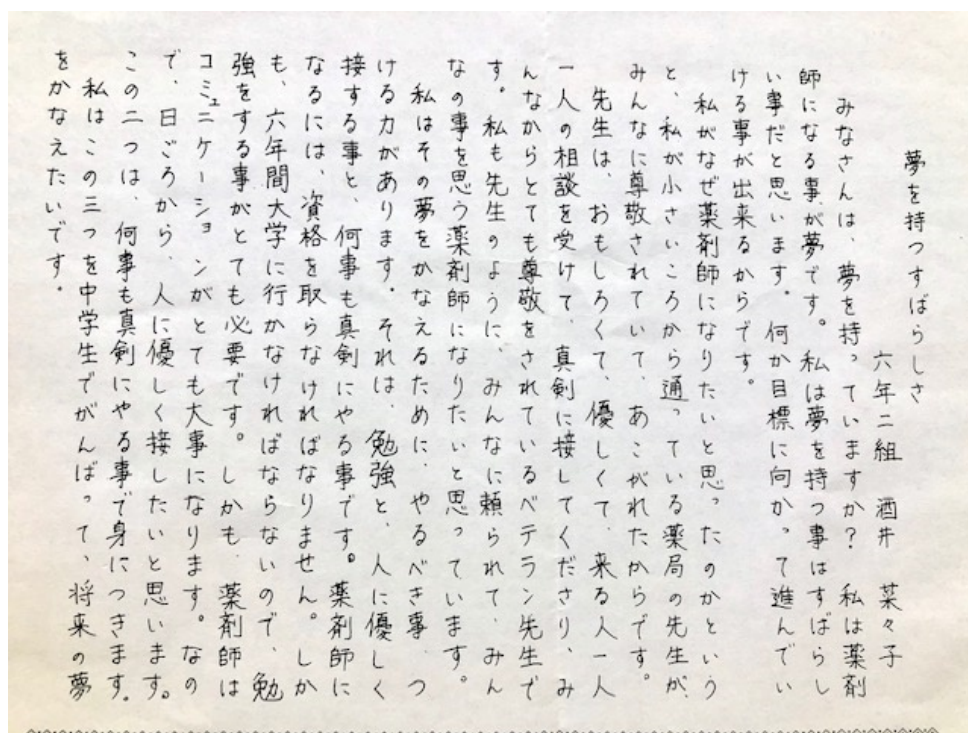
ほめてあげました！（涙）



もう一人、印象深い子がいます。

酒井さんは小学2年生から薬局に来ていたと記憶しています。
そして今春、なんと倍率8倍！の狭き門を見事突破して、自分が志した
大学に進学します。

思い出深いのは、彼女が小学校卒業の文集に記した当時の夢です。



あれから6年が経ち、彼女は医療ではなく、教育界に自ら進路を決めました。

「薬剤師になることが人生の目的ではない。それは一つの目標に過ぎない。
目的達成のために目標を次々に設定していく。どんな仕事や肩書であろうと
目的が明確な人生を歩んで行けば、必ず幸せになれるよ！」
そんなことを中学生の時に進路指導した覚えがあります(^-^)

太田先生の“先生”は
“先を生きる”者という意です。
進路 相談薬局で夢と希望を持たせ
道を開いてあげる。

「先を幸せに生きている」
“先幸”の生き方を示す。太田先生は
“センコー”なのです！ \ (^o^) /

